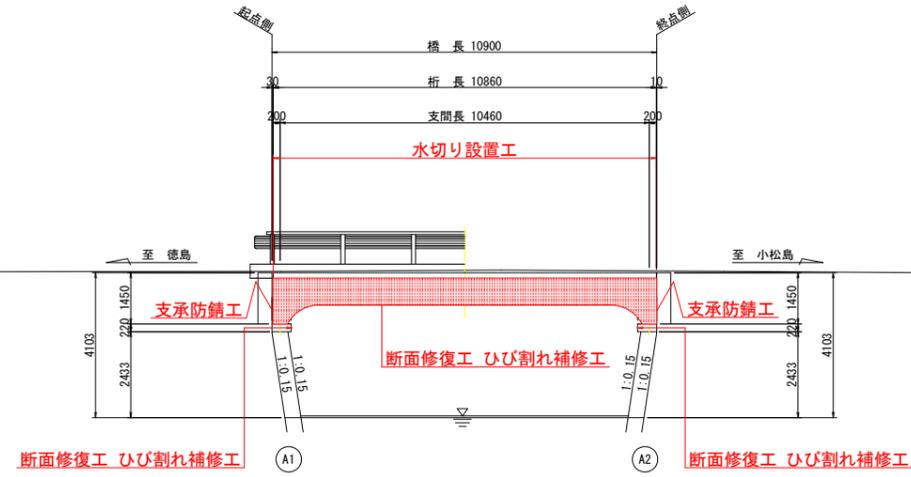
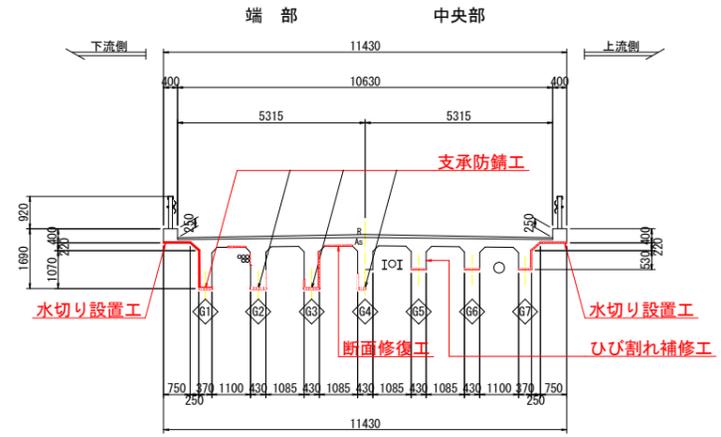


津田小橋 補修計画一般図

側面図 S=1:100

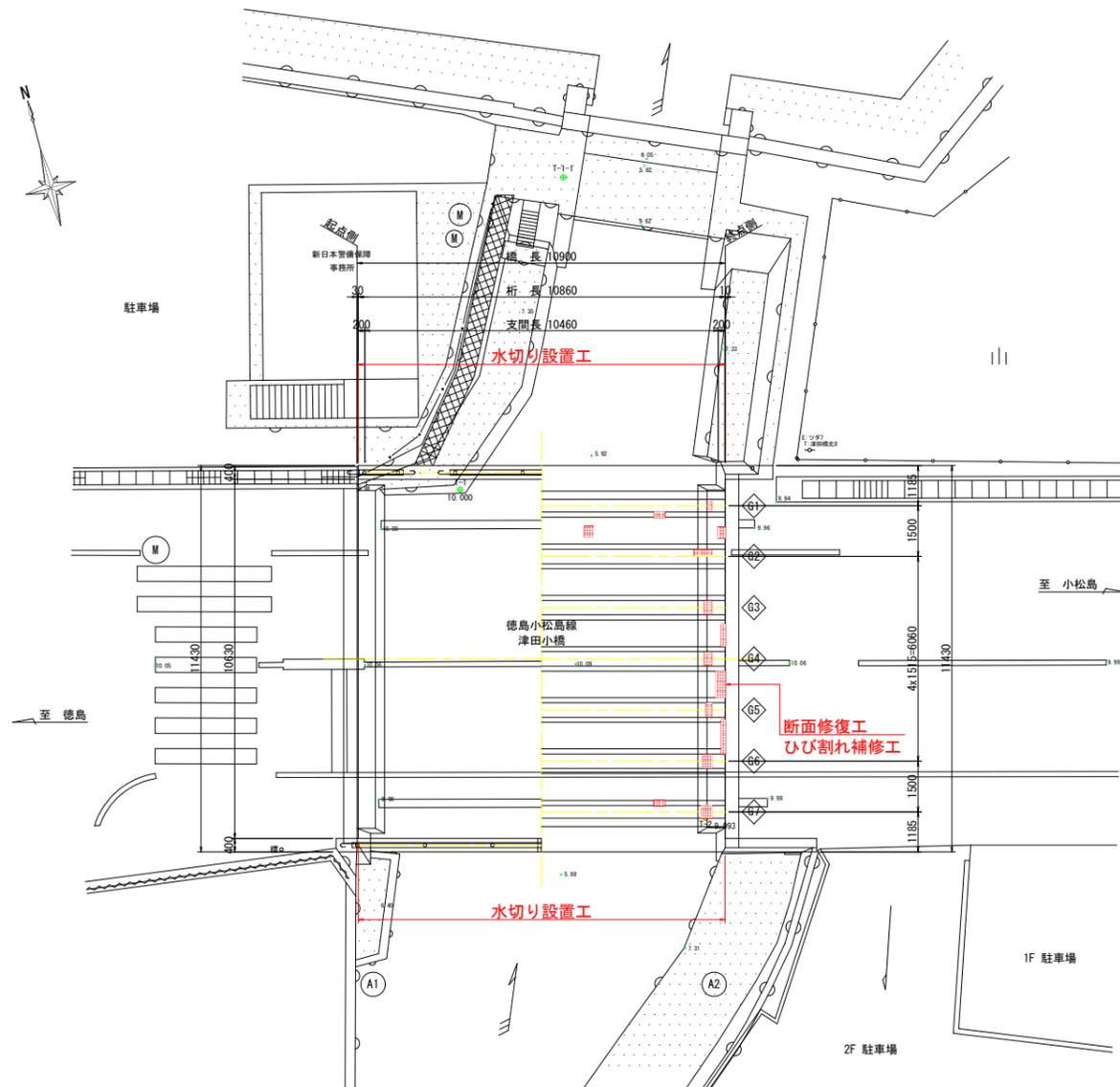


断面図 S=1:100

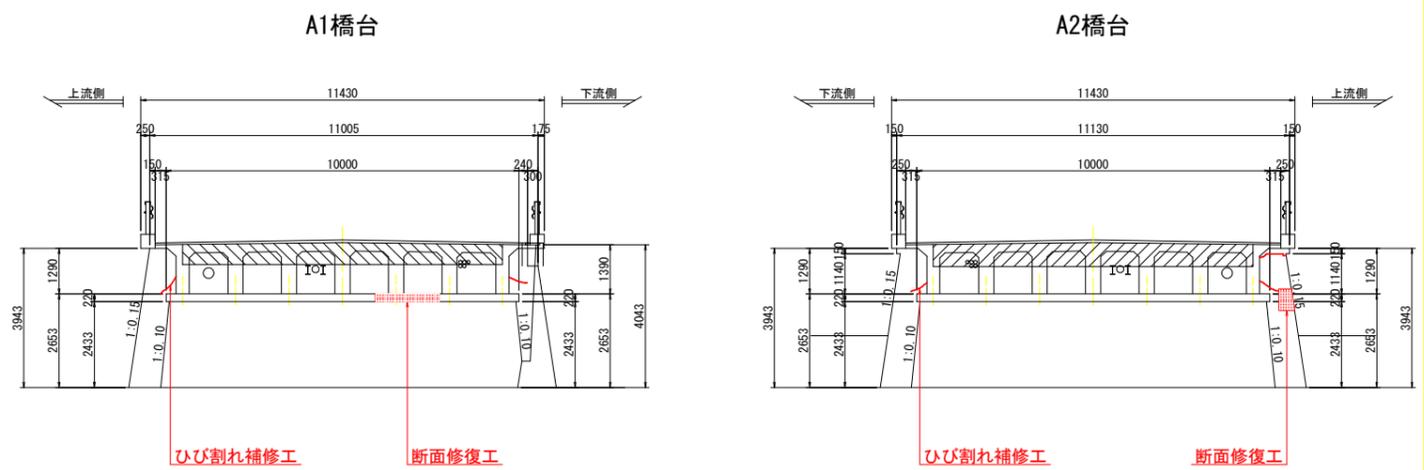


0L=1:000

平面図 S=1:100



下部工正面図 S=1:100



津田小橋 補修工事内容一覧

工種	仕様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル
ひび割れ補修工	エポキシ樹脂低圧注入、充てん工法
水切設置工	あと施工型(軟質PVC)

- 注記)
 1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 寸法は、現場実測後決定する。

実施設計図面

工事名	R7 徳土 徳島小松島線(津田小橋) 徳・新浜～津田浜之町 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町～津田浜之町(津田小橋)		
図面名	補修計画一般図		
縮尺	S=1:100	図面番号	1 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

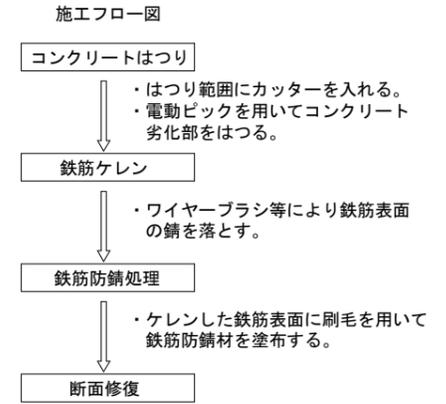
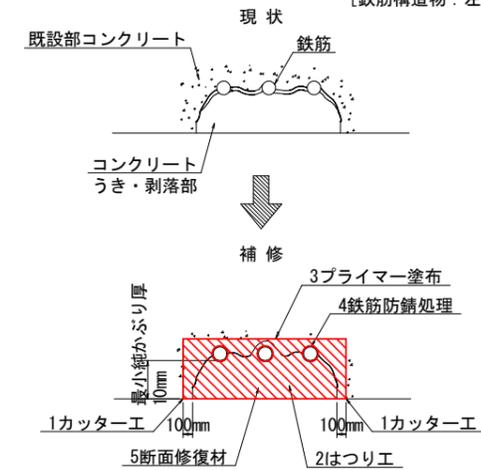
津田小橋 補修工詳細図(1/4)

断面図 S=1:50

主桁展開図(G1-G4) S=1:50

断面修復工

[鉄筋構造物：左官工法]



断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

ここに、

- V : 断面修復材量
- W : 修復幅
- L : 修復長
- t : 修復厚
- 1.18 : ロス率

- 1) 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	2.07	0.30	0.04	0.025	G1主桁側面
(2)	1.30	0.74	0.04	0.038	"
(3)	0.85	0.22	0.04	0.007	"
(4)	1.30	0.39	0.04	0.020	"
(5)	0.85	0.26	0.04	0.009	"
(6)	1.25	0.98	0.04	0.049	"
(7)	0.85	0.17	0.04	0.006	"
(8)	0.61	0.25	0.04	0.006	"
(9)	0.67	0.30	0.04	0.008	"
(10)	0.85	0.30	0.04	0.010	"
(11)	0.65	1.37	0.04	0.036	"
(12)	1.05	0.47	0.04	0.020	"
(13)	1.25	0.30	0.04	0.015	"
(14)	1.05	0.23	0.04	0.010	"
(15)	0.75	0.57	0.04	0.017	"
(16)	0.35	0.29	0.04	0.004	"
(17)	0.50	0.44	0.04	0.009	"
(18)	0.85	0.37	0.04	0.013	"
(19)	0.35	0.40	0.04	0.006	"
(20)	0.85	0.77	0.04	0.026	"
(21)	1.25	1.14	0.04	0.057	"
(22)	0.35	0.22	0.04	0.003	"
(23)	0.30	1.28	0.04	0.015	"
(24)	0.37	0.60	0.04	0.009	G1主桁下面
(25)	0.50	0.20	0.04	0.004	G1主桁側面
(26)	0.37	0.20	0.04	0.003	G1主桁下面
(27)	0.44	0.20	0.04	0.004	G1主桁側面
(28)	0.25	0.30	0.04	0.003	"
(29)	0.35	0.40	0.04	0.006	G2主桁側面
(30)	0.35	0.30	0.04	0.004	"
				合計	0.524

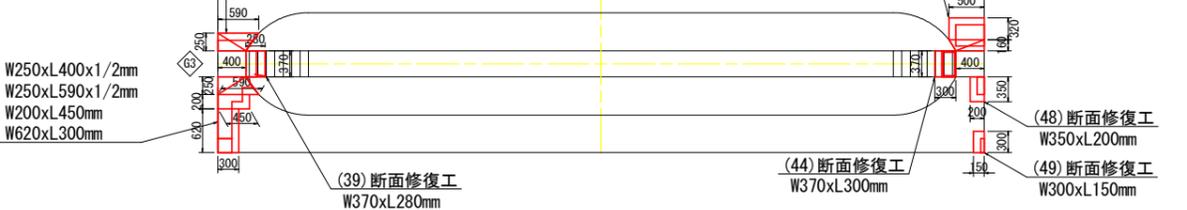
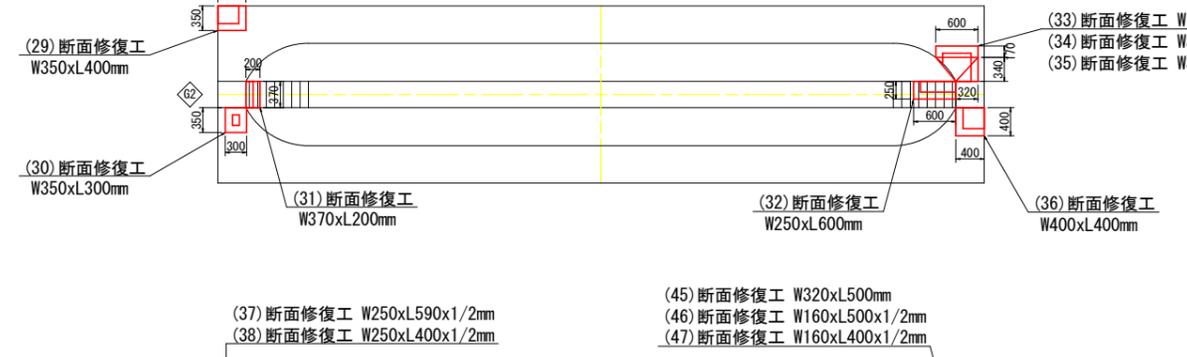
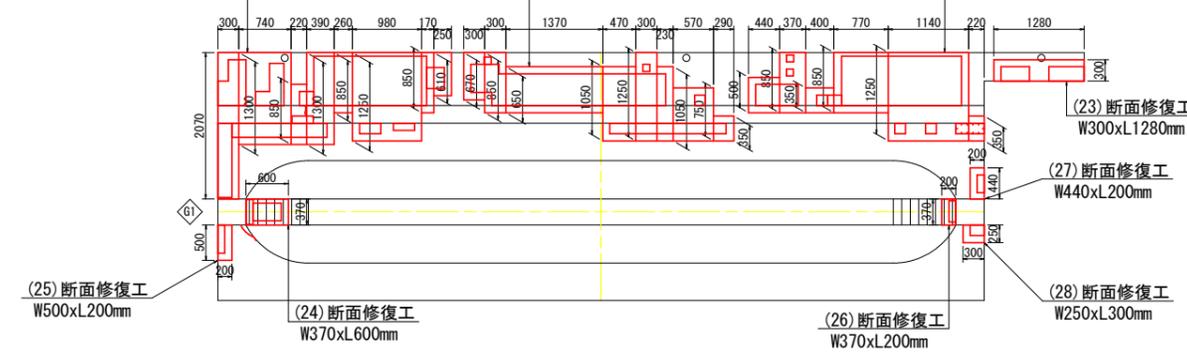
※は、A=幅×長さ×1/2

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(31)	0.37	0.20	0.04	0.003	G2主桁下面
(32)	0.25	0.60	0.04	0.006	"
(33)	0.17	0.60	0.04	0.004	G2主桁側面
(34)	0.34	0.60	0.04	0.004	G2主桁側面※
(35)	0.34	0.32	0.04	0.002	"
(36)	0.40	0.40	0.04	0.006	G2主桁側面
(37)	0.25	0.59	0.04	0.003	G3主桁側面※
(38)	0.25	0.40	0.04	0.002	"
(39)	0.37	0.28	0.04	0.004	G3主桁下面
(40)	0.25	0.40	0.04	0.002	G3主桁側面※
(41)	0.25	0.59	0.04	0.003	"
(42)	0.20	0.45	0.04	0.004	G3主桁側面
(43)	0.62	0.30	0.04	0.007	"
(44)	0.37	0.30	0.04	0.004	G3主桁下面
(45)	0.32	0.50	0.04	0.006	G3主桁側面
(46)	0.16	0.50	0.04	0.002	G3主桁側面※
(47)	0.16	0.40	0.04	0.001	"
(48)	0.35	0.20	0.04	0.003	G3主桁側面
(49)	0.30	0.15	0.04	0.002	"
(50)	0.40	0.20	0.04	0.003	G4主桁側面
(51)	0.37	0.30	0.04	0.004	G4主桁下面
(52)	0.40	0.20	0.04	0.003	G4主桁側面
(53)	0.37	0.30	0.04	0.004	G4主桁下面
				合計	0.524

※は、A=幅×長さ×1/2

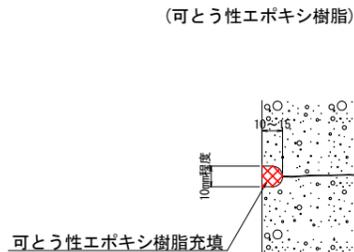
- (1) 断面修復工 W2070xL300mm
- (2) 断面修復工 W1300xL740mm
- (3) 断面修復工 W850xL220mm
- (4) 断面修復工 W1300xL390mm
- (5) 断面修復工 W850xL260mm
- (6) 断面修復工 W1250xL980mm
- (7) 断面修復工 W850xL170mm
- (8) 断面修復工 W610xL250mm
- (9) 断面修復工 W670xL300mm
- (10) 断面修復工 W850xL300mm
- (11) 断面修復工 W650xL1370mm
- (12) 断面修復工 W1050xL470mm
- (13) 断面修復工 W1250xL300mm
- (14) 断面修復工 W1050xL230mm
- (15) 断面修復工 W750xL570mm
- (16) 断面修復工 W350xL290mm
- (17) 断面修復工 W500xL440mm
- (18) 断面修復工 W850xL370mm
- (19) 断面修復工 W350xL400mm
- (20) 断面修復工 W850xL770mm
- (21) 断面修復工 W1250xL1140mm
- (22) 断面修復工 W350xL220mm



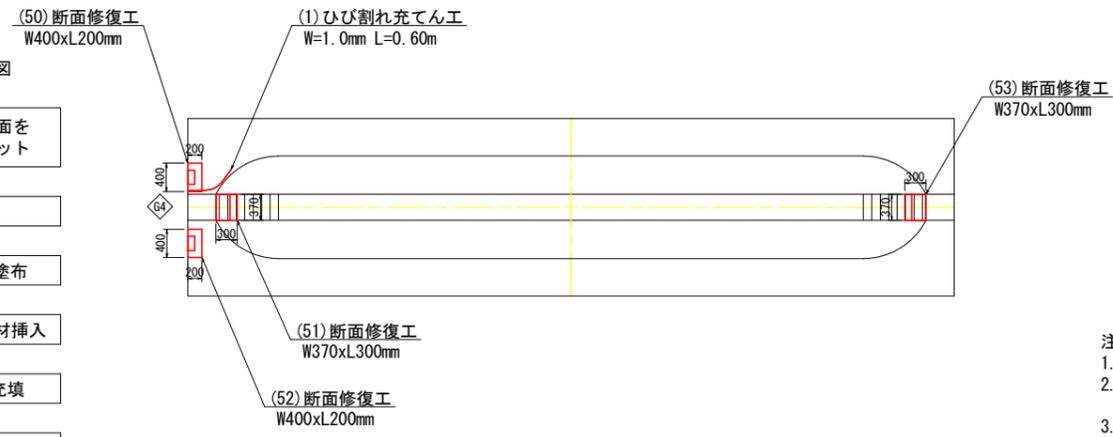
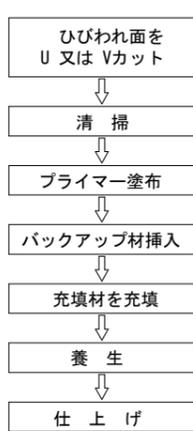
ひび割れ補修工

[充てん工法]

(可とう性エポキシ樹脂)



施工フロー図



番号	幅(mm)	長さ(m)	充填量(kg/m3)	備考
(1)	1.00	0.60	0.090	G4主桁側面
合計			0.090	

注記)
ひびわれ深さが深い場合は、注入工法と併用すること。
充填量は下式より算出する。
 $V=0.010 \cdot 1/2 \cdot (0.010+0.015) \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$
ここに、
V : 充填量
1200 : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重(kg/m3)
L : ひびわれ延長
1.20 : ロス率

- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
 3. 修復厚さは、鉄筋探査結果より、純かぶり10mm+主鉄筋φ16=40mmに設定している。
 4. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 5. 鉄筋構造物は鉄筋の裏側まではつることを原則とする。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
 6. 充てん工法の充填材量は、可とう性エポキシ樹脂系充填材を標準としている。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
 7. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

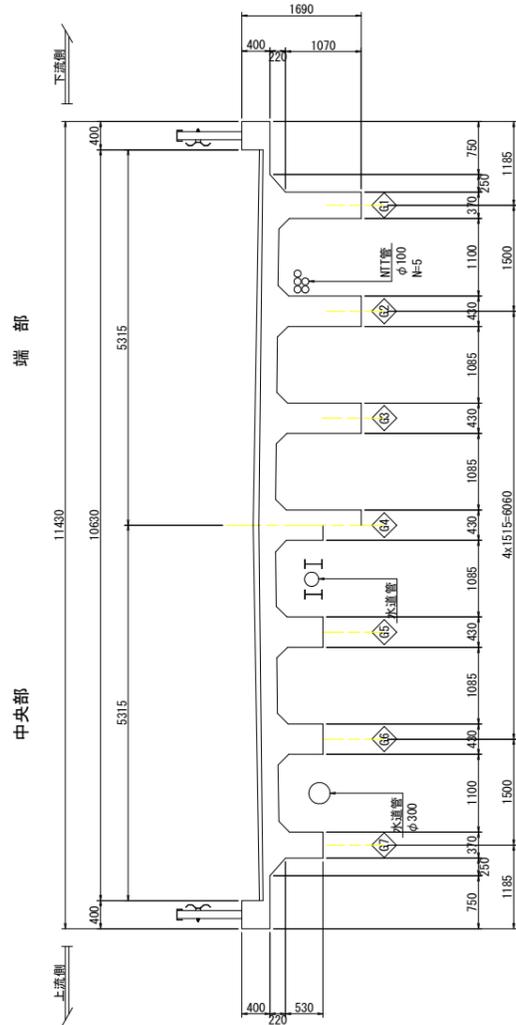
実施設計図面

工事名	R7徳島 徳島小松島線(津田小橋) 徳島新浜~津田浜之 橋梁補修工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町~津田浜之町(津田小橋)		
図面名	補修工詳細図(1/4)		
縮尺	図示	図面番号	2 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

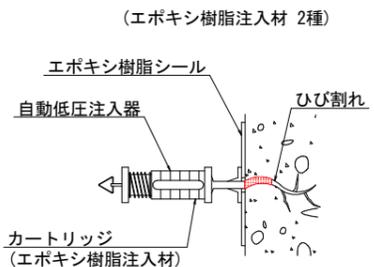
津田小橋 補修工詳細図(2/4)

主桁展開図(G5-G7) S=1:50

断面図 S=1:50



ひび割れ補修工 [注入工法]



エポキシ樹脂注入材 2種

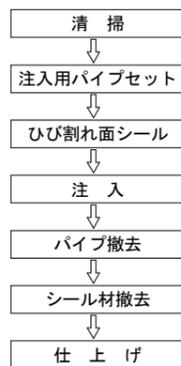
注入量Vは下式より算出する。

$$V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$$

ここに、

- V : 注入量
- 1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
- b : ひびわれ幅
- h : ひびわれ深さ
- L : ひび割れ延長
- 1.20 : ロス率

施工フロー図

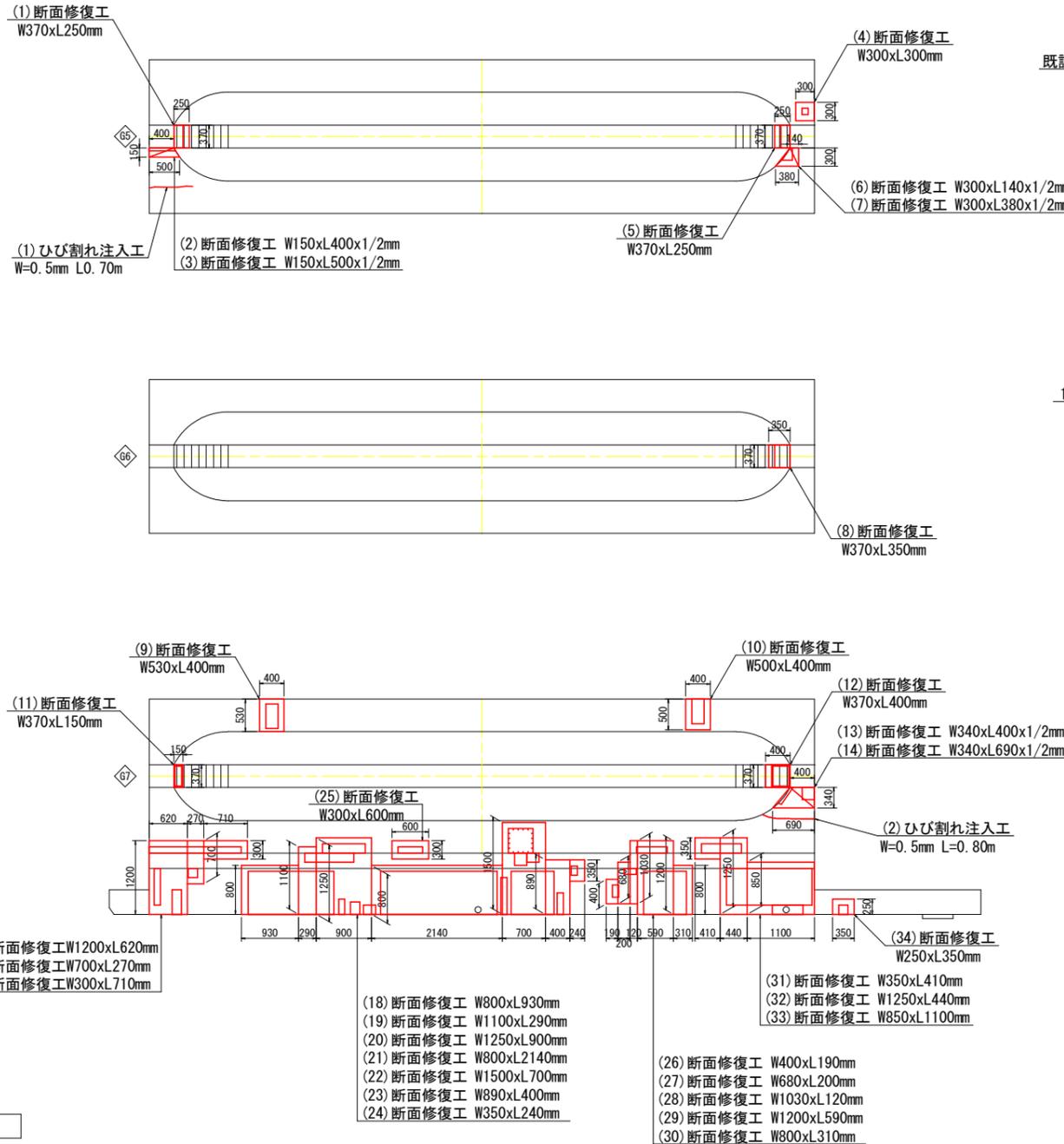


ひび割れ注入工

番号	幅 (mm)	長さ (m)	深さ (m)	注入量 (kg)	備考
(1)	0.50	0.70	0.05	0.021	G5主桁側面
(2)	0.50	0.80	0.05	0.024	G7主桁側面
				合計	0.045

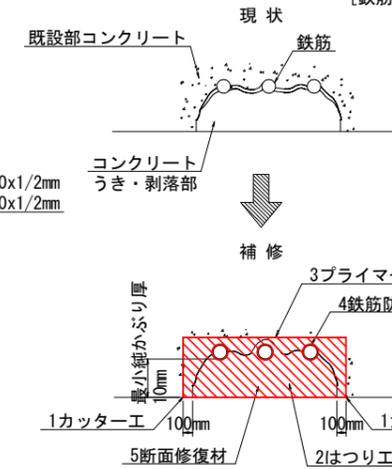
注記

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 修復厚さは、現橋調査結果より、純かぶり10mm+主鉄筋φ16=40mmに設定している。
4. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
5. 鉄筋構造物は鉄筋の裏側まではつることを原則とする。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
6. 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
7. 注入深さは、50mmに設定している。
8. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

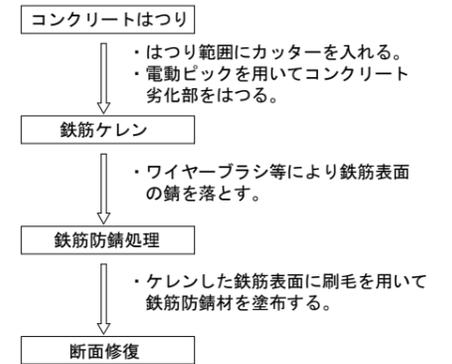


断面修復工

[鉄筋構造物：左官工法]



施工フロー図



断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

ここに、

- V : 断面修復材量
- W : 修復幅
- L : 修復長さ
- t : 修復厚
- 1.18 : ロス率

- 1) 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいように、特に入念に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復工 (左官工法)

番号	幅 (m)	長さ (m)	厚さ (m)	数量 (m3)	備考
(1)	0.37	0.25	0.04	0.004	G5主桁下面
(2)	0.15	0.40	0.04	0.001	G5主桁側面※
(3)	0.15	0.50	0.04	0.002	"
(4)	0.30	0.30	0.04	0.004	G5主桁側面
(5)	0.37	0.25	0.04	0.004	G5主桁下面
(6)	0.30	0.14	0.04	0.001	G5主桁側面※
(7)	0.30	0.38	0.04	0.002	"
(8)	0.37	0.35	0.04	0.005	G6主桁下面
(9)	0.53	0.40	0.04	0.008	G7主桁側面
(10)	0.50	0.40	0.04	0.008	"
(11)	0.37	0.15	0.04	0.002	G7主桁下面
(12)	0.37	0.40	0.04	0.006	"
(13)	0.34	0.40	0.04	0.003	G7主桁側面※
(14)	0.34	0.69	0.04	0.005	"
(15)	1.20	0.62	0.04	0.030	G7主桁側面
(16)	0.70	0.27	0.04	0.008	"
(17)	0.30	0.71	0.04	0.009	"
(18)	0.80	0.93	0.04	0.030	"
(19)	1.10	0.29	0.04	0.013	"
(20)	1.25	0.90	0.04	0.045	G7主桁側面
(21)	0.80	2.14	0.04	0.068	"
(22)	1.50	0.70	0.04	0.042	"
(23)	0.89	0.40	0.04	0.014	"
(24)	0.35	0.24	0.04	0.003	"
(25)	0.30	0.60	0.04	0.007	"
(26)	0.40	0.19	0.04	0.003	"
(27)	0.68	0.20	0.04	0.005	"
(28)	1.03	0.12	0.04	0.005	"
(29)	1.20	0.59	0.04	0.028	"
(30)	0.80	0.31	0.04	0.010	"
(31)	0.35	0.41	0.04	0.006	"
(32)	1.25	0.44	0.04	0.022	"
(33)	0.85	1.10	0.04	0.037	"
(34)	0.25	0.35	0.04	0.004	"
				合計	0.444

※は、A=幅x長さx1/2

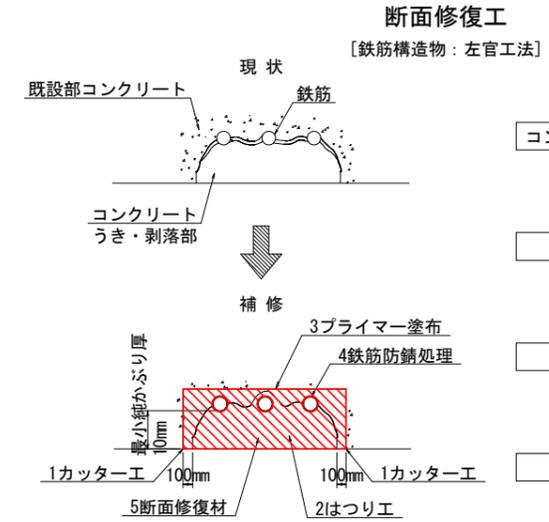
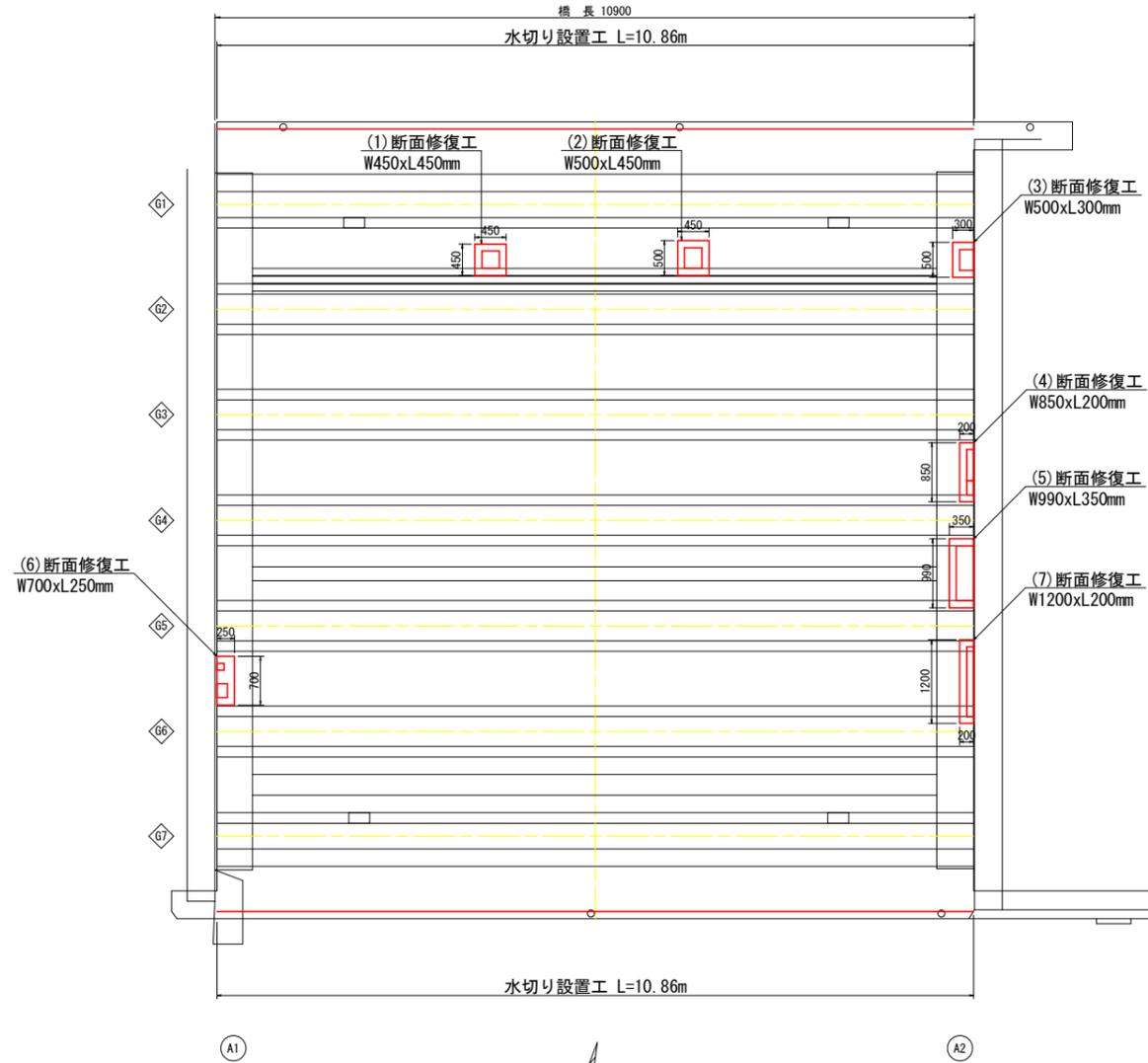
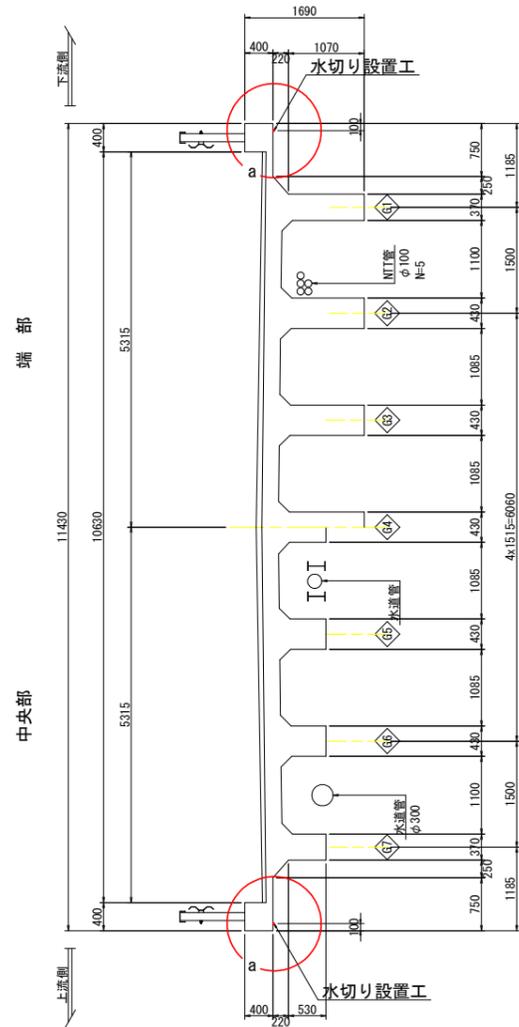
実施設計図面

工事名	R7徳島 徳島小松島線(津田小橋) 徳・新浜~津田浜之 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町~津田浜之町(津田小橋)		
図面名	補修工詳細図(2/4)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

津田小橋 補修工詳細図(3/4)

床版下面図 S=1:50

断面図 S=1:50



断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

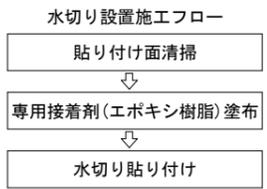
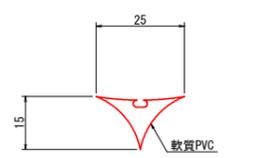
ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率

- 1) 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.45	0.45	0.04	0.008	床版01
(2)	0.50	0.45	0.04	0.009	"
(3)	0.50	0.30	0.04	0.006	"
(4)	0.85	0.20	0.04	0.007	床版03
(5)	0.99	0.35	0.04	0.014	床版04
(6)	0.70	0.25	0.04	0.007	床版05
(7)	1.20	0.20	0.04	0.010	"
				合計	0.061

水切り詳細図(a部) S=1:1



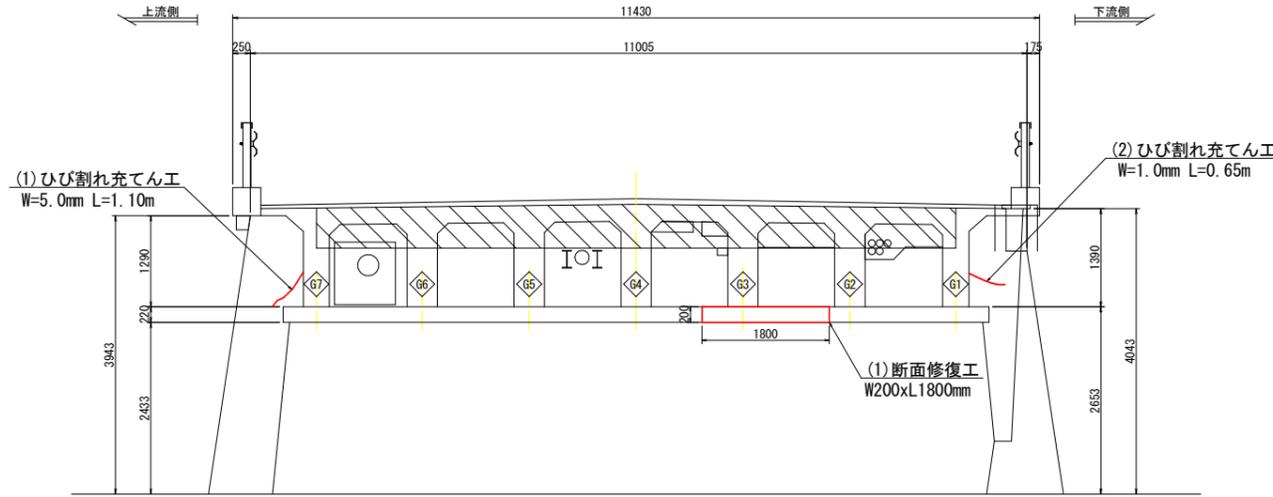
- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
 3. 修復厚さは、鉄筋探査結果より、純かぶり10mm+主鉄筋φ16=40mmに設定している。
 4. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 5. 鉄筋構造物は鉄筋の裏側までのはつり厚さを原則とする。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
 6. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

実施設計図面

工事名	R7徳土 徳島小松島線(津田小橋) 徳・新浜~津田浜之 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町~津田浜之町(津田小橋)		
図面名	補修工詳細図(3/4)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

津田小橋 補修工詳細図(4/4)

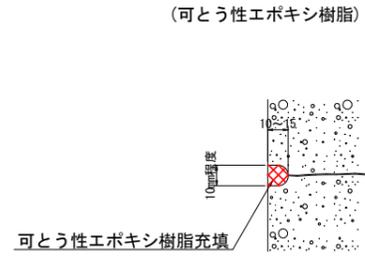
A1橋台正面図 S=1:50



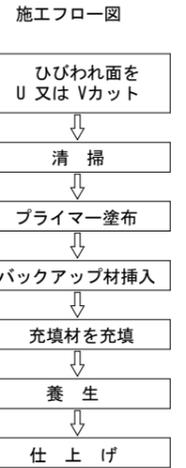
番号	幅(mm)	長さ(m)	充填量(kg/m3)	備考
(1)	5.00	1.10	0.165	A1橋台
(2)	1.00	0.65	0.098	"
(3)	10.00	0.60	0.090	A2橋台
(4)	10.00	2.00	0.300	"
合計			0.653	

番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入量(kg)	備考
(1)	0.50	0.70	0.05	0.021	A2橋台
合計				0.021	

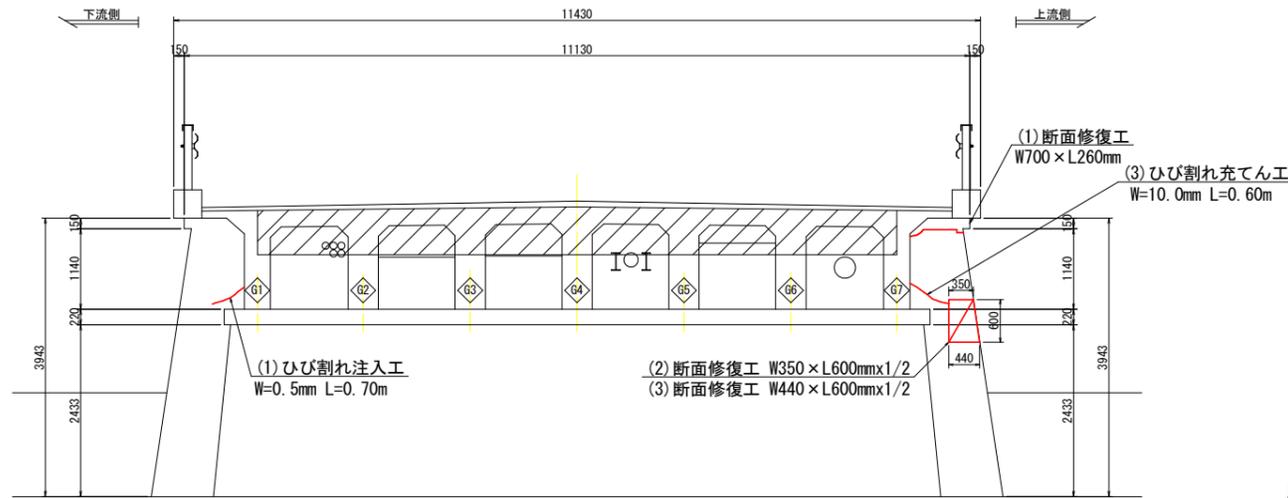
ひび割れ補修工 [充てん工法]



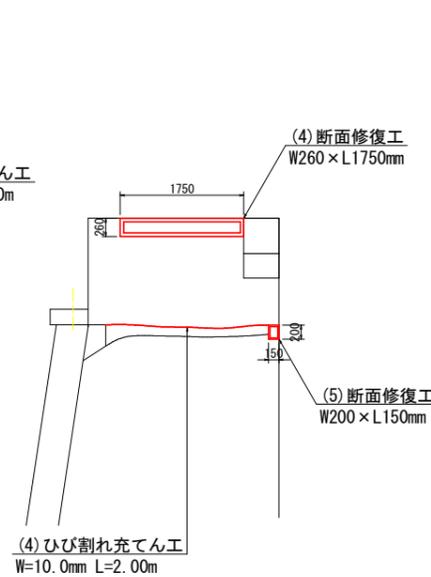
注記) ひびわれ深さが深い場合は、注入工法と併用すること。
 充填量は下式より算出する。
 $V=0.010 \cdot 1/2 \cdot (0.010+0.015) \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$
 ここに、
 V : 充填量
 1200 : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重 (kg/m3)
 L : ひびわれ延長
 1.20 : ロス率



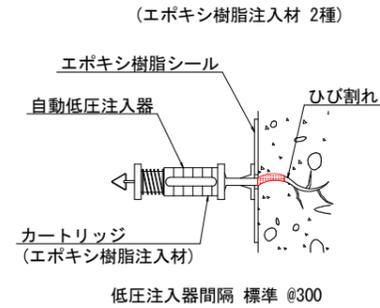
A2橋台正面図 S=1:50



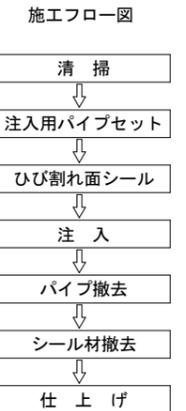
上流側側面図 S=1:50



[注入工法]

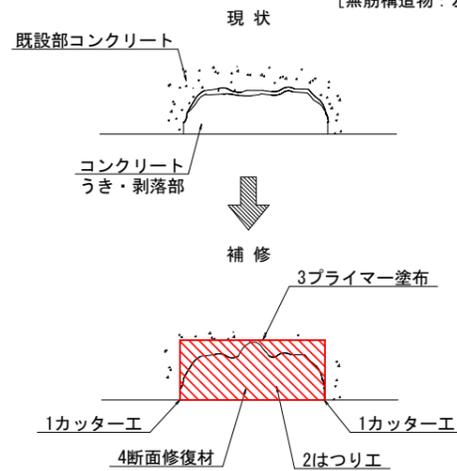


注記) 注入量Vは下式より算出する。
 $V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$
 ここに、
 V : 注入量
 1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
 b : ひびわれ幅
 h : ひびわれ深さ
 L : ひびわれ延長
 1.20 : ロス率

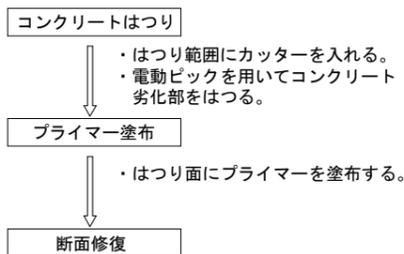


断面修復工

[無筋構造物：左官工法]



施工フロー図



断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
 ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率

- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.20	1.80	0.03	0.011	A1橋台
合計				0.011	

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.70	0.26	0.03	0.005	A2橋台
(2)	0.35	0.60	0.03	0.003	A2橋台※
(3)	0.44	0.60	0.03	0.004	"
(4)	0.26	1.75	0.03	0.014	A2橋台
(5)	0.20	0.15	0.03	0.001	"
合計				0.027	

※は、A=幅×長さ×1/2

注記)

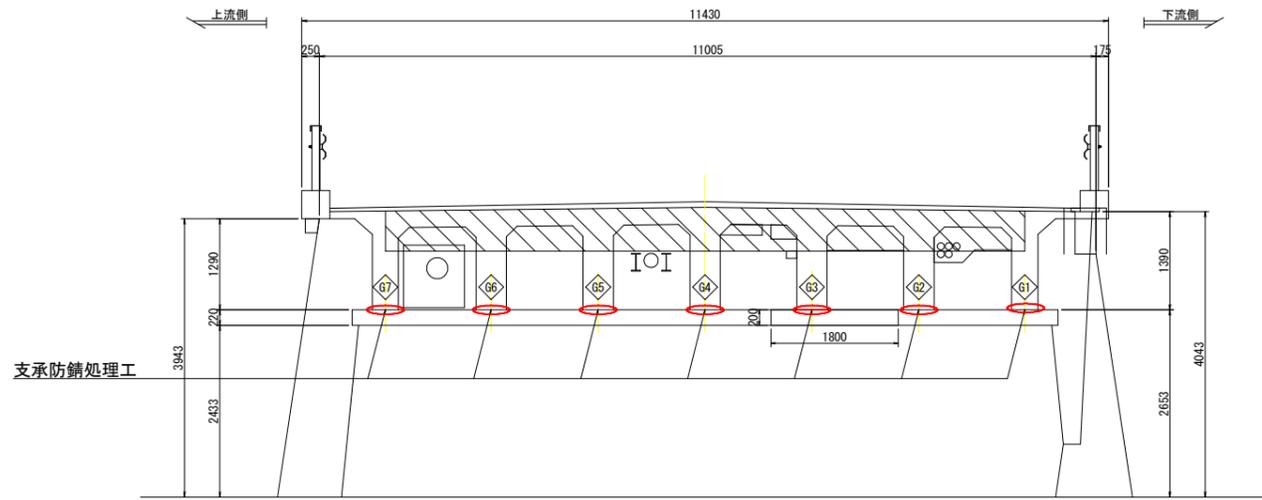
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 修復厚さは、特記なき損傷箇所は30mmとする。
4. 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
5. 注入深さは、50mmに設定している。
6. 充てん工法の充填材量は、可とう性エポキシ樹脂系充填材を標準としている。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
7. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

実施設計図面

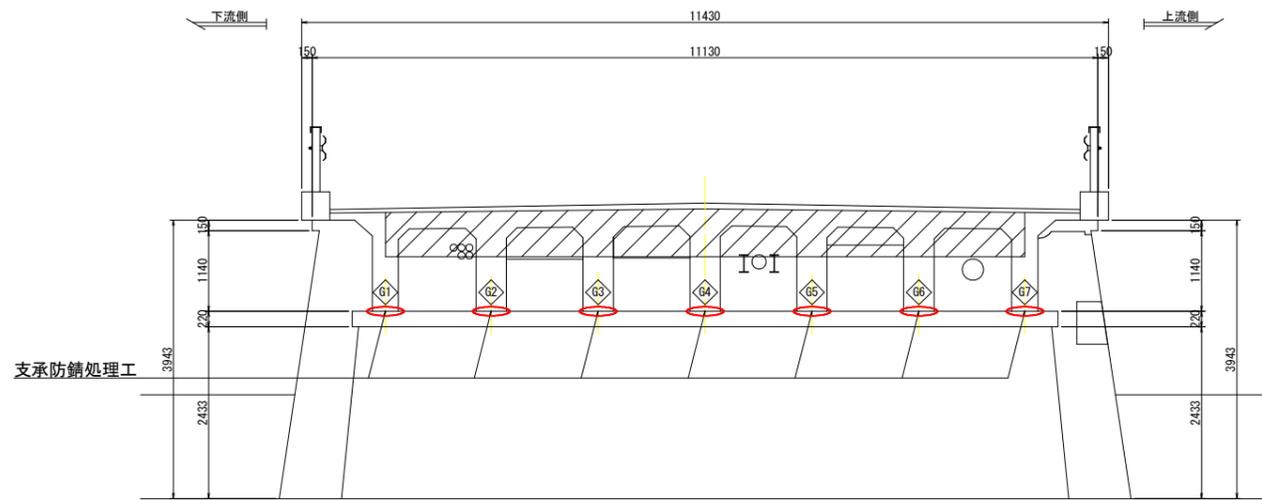
工事名	R7徳土 徳島小松島線(津田小橋) 徳・新浜~津田浜之 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町~津田浜之町(津田小橋)		
図面名	補修工詳細図(4/4)		
縮尺	図示	図面番号	5 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

津田小橋 支承防錆工詳細図

A1橋台正面図 S=1:50

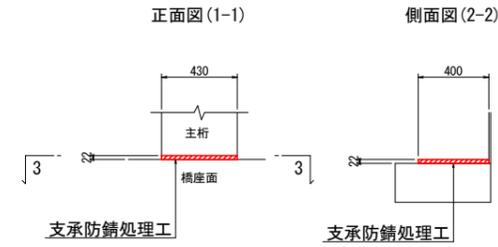


A2橋台正面図 S=1:50

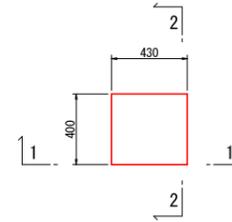


支承防錆処理工詳細図 S=1:20

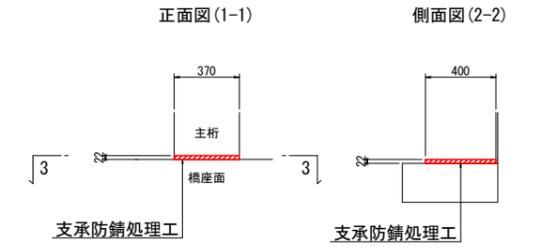
支承詳細図 (G2~G6)



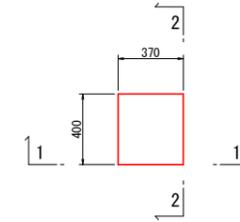
平面図 (3-3)



支承詳細図 (G1・G7)



平面図 (3-3)



常温亜鉛めっき塗装工法

工程	塗布量 (g/m ²)	実塗布量 (g/m ² 、本/m ²)			塗膜厚 (μm)	
		ハケ	スプレー	エアゾール	ドライ	ウェット
素地調整		3種				
常温亜鉛めっき 1回目	250	300	325	1.5本	40	75
常温亜鉛めっき 2回目	250	300	325	1.5本	40	75
合計	500	600	650	3.0本	80	150

注記)

1. ケレン作業を行う必要がある場合は、作業者の安全確保、周辺環境の汚染防止策を確実に講じた上でケレン作業を行うこと。

注記)

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。

実施設計図面

工事名	R7徳土 徳島小松島線(津田小橋) 徳・新浜~津田浜之 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市新浜町~津田浜之町(津田小橋)		
図面名	支承防錆工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	6 / 6
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		